

郡上農林事務所の普及活動状況 令和7年2月28日現在

今月の重点活動

■就農支援 サポートチームで就農状況を確認

農林事務所（農業普及課、農業振興課）、郡上市、JAで組織する新規就農サポートチームはアグリチャレンジ支援センターと連携し就農5年以内の新規就農者の就農状況確認（下半期分）を2月から開始した。

それぞれの新規就農者から、現時点の技術習得状況や青年等就農計画の達成状況等を書類と聞き取りで確認し、次年作に向けた反省や改善策を確認した。

農業普及課では、関係機関と連携し、新規就農者の技術・経営能力の向上と就農定着に向けた伴走支援を継続していく。



【就農状況の聞き取り】

郡上農畜水産物のブランド展開

■フランネルフラワー 持続型農業を目指して

八幡町でフランネルフラワーを栽培する生産者に対し、来年度実施する天敵等を導入したIPM（総合的病害虫管理）試験について2月19日に事前打ち合わせを行った。革新支援専門員と訪問し、試験ほ場の確認を行い、試験開始時期等を決めた。

生産者はハダニ類等の害虫に対して化学農薬主体の防除を行っている。試験では天敵でハダニ類を抑え、併せて防虫ネットを被覆しタバコガ類の侵入を阻止する環境にやさしいIPM体系の確立を目指す。

農業普及課では、IPMの考えを取り入れた環境にやさしい防除体系の確立に向け、関係機関と連携して実証試験に取り組む。



【試験打ち合わせ】

■夏秋トマト 個別面談を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では2月20～21日に個別面談を開催し、昨年の栽培の振り返りと今年作に向けた栽培管理の改善方向について検討した。昨年は生育初期から気温が高く推移しトマトの生育は早く進み、梅雨明け以降は猛暑が続いたため樹勢管理の難しい年となった。

令和7年度も暑い夏が予想されており、農業普及課およびJA営農指導員は、暑さ対策に加え樹勢維持のための土づくりを含めた施肥管理について個別に助言を行った。

農業普及課では、今後も年間を通じて安定した収量が得られるよう夏秋トマト部会への支援を行う。



【個別面談の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■新規需要米 WCS・飼料用米の安定生産支援

新規需要米のWCS（ホールクロップサイレージ）・飼料用米の取組に係る検討会が市内各地区で開催されている（1月14日 八幡町、2月18日 明宝、3月上中旬予定 白鳥町・和良町）。

この検討会は、畜産農家・耕種農家・関係機関が参加してJA主催により毎年行われており、令和6年産の価格や品質、令和7年産の必要数量や作付面積等を協議した。農業普及課からは農薬の使用上の留意点を情報提供した。

米価が低迷する中、経営安定のため、郡上市でも新規需要米の作付面積は年々拡大しているが、今後も農業普及課はWCS・飼料用米の安定生産を支援していく。



【WCSの収穫の様子】